

x, y, z 軸上に、3点 $A(1, 0, 0), B(0, 2, 0), C(0, 0, 3)$ がある。
線分 AB を $s:1-s$ に内分する点を P とし、線分 PC を $t:1-t$ に内分する点を Q とする。ただし、 $0 < s < 1, 0 < t < 1$ である。

- (1) 原点を O とするとき、 \overrightarrow{OQ} を s, t を用いて表せ。
- (2) Q が原点 O に最も近くなる場合の s と t の値を求めよ。

< '97 名古屋大 >

【戦略】

- (1) 状況を図に書き、立式します。

状況的に、 P が先に決まり、その P をもとに Q が決まります。

式的にも $\overrightarrow{OP} = (1-s)\overrightarrow{OA} + s\overrightarrow{OB}$ と、 \overrightarrow{OP} が求まり

$\overrightarrow{OQ} = (1-t)\overrightarrow{OP} + t\overrightarrow{OC}$ と求めればよいでしょう。

- (2) OQ が最小となるときをとらえます。

(1) で、 $\overrightarrow{OQ} = \begin{pmatrix} (1-t)(1-s) \\ 2s(1-t) \\ 3t \end{pmatrix}$ と得られますから

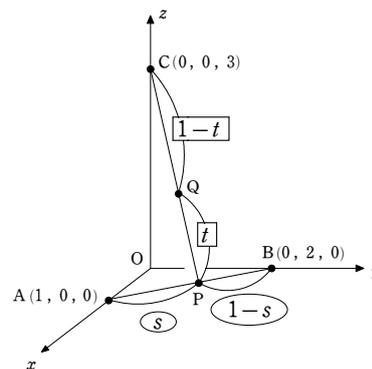
$$|\overrightarrow{OQ}|^2 = (1-t)^2(1-s)^2 + 4s^2(1-t)^2 + 9t^2$$

という 2 変数関数の最小を考えます。

s, t は独立 2 変数なので、予選決勝法で仕留めます。

どちらを先に固定するかということですが、 t の方が 3 カ所に散らばっていて出しゃばっていますから、 t の方を固定し s の方を動かしていきます。

【解答】



$$\begin{aligned} (1) \quad \overrightarrow{OP} &= (1-s)\overrightarrow{OA} + s\overrightarrow{OB} \\ &= (1-s)\begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} + s\begin{pmatrix} 0 \\ 2 \\ 0 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} 1-s \\ 2s \\ 0 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OQ} &= (1-t)\overrightarrow{OP} + t\overrightarrow{OC} \\ &= (1-t)\begin{pmatrix} 1-s \\ 2s \\ 0 \end{pmatrix} + t\begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 3 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} (1-t)(1-s) \\ 2s(1-t) \\ 3t \end{pmatrix} \dots \text{圈} \end{aligned}$$

$$(2) \quad (1) \text{ より } |\overrightarrow{OQ}|^2 = (1-t)^2(1-s)^2 + 4s^2(1-t)^2 + 9t^2$$

t を固定し、 s の式と見なして s について整理すると

$$\begin{aligned} |\overrightarrow{OQ}|^2 &= (1-t)^2\{(1-s)^2 + 4s^2\} + 9t^2 \\ &= (1-t)^2(5s^2 - 2s + 1) + 9t^2 \\ &= (1-t)^2\left\{5\left(s - \frac{1}{5}\right)^2 + \frac{4}{5}\right\} + 9t^2 \end{aligned}$$

$(1-t)^2 > 0$ より、 $0 < s < 1$ において、

$$\begin{aligned} |\overrightarrow{OQ}|^2 &\geq \frac{4}{5}(1-t)^2 + 9t^2 \quad \left(\text{等号成立は } s = \frac{1}{5} \text{ のとき}\right) \\ &= \frac{49}{5}t^2 - \frac{8}{5}t + \frac{4}{5} \\ &= \frac{49}{5}\left(t - \frac{4}{49}\right)^2 + \frac{36}{49} \\ &\geq \frac{36}{49} \quad \left(\text{等号成立は } t = \frac{4}{49} \text{ のとき}\right) \end{aligned}$$

求めるのは $|\overrightarrow{OQ}|$ が最小となるような s, t の値であり

$$s = \frac{1}{5}, t = \frac{4}{49} \dots \text{圈}$$

【戦略2】方針のみ

$$|\overrightarrow{OQ}|^2 = (1-t)^2(1-s)^2 + 4s^2(1-t)^2 + 9t^2$$

において、 t の関数と見ると、

$$|\overrightarrow{OQ}|^2 = (5s^2 - 2s + 10)t^2 - (10s^2 - 4s + 2)t + 5s^2 - 2s + 1$$

というように t の2次関数となります。

これを整理すると

$$\begin{aligned} |\overrightarrow{OQ}|^2 &= (5s^2 - 2s + 10) \left(t - \frac{5s^2 - 2s + 1}{5s^2 - 2s + 10} \right)^2 + \frac{9(5s^2 - 2s + 1)}{5s^2 - 2s + 10} \\ &= (5s^2 - 2s + 10) \left(t - \frac{5s^2 - 2s + 1}{5s^2 - 2s + 10} \right)^2 + 9 \left(1 - \frac{9}{5s^2 - 2s + 10} \right) \\ &= (5s^2 - 2s + 10) \left(t - \frac{5s^2 - 2s + 1}{5s^2 - 2s + 10} \right)^2 + 9 \left(1 - \frac{9}{5 \left(s - \frac{1}{5} \right)^2 + \frac{49}{5}} \right) \end{aligned}$$

となり、 $0 < \frac{5s^2 - 2s + 1}{5s^2 - 2s + 10} < 1$ であることに注意すると

$t = \frac{5s^2 - 2s + 1}{5s^2 - 2s + 10}$ とするのが最善だということになります。

このとき、 $|\overrightarrow{OQ}|^2 = 9 \left(1 - \frac{9}{5 \left(s - \frac{1}{5} \right)^2 + \frac{49}{5}} \right)$ となります。

s の固定を外し、 s を $0 < s < 1$ で動かしたとき、 $s = \frac{1}{5}$ とすれば

$|\overrightarrow{OQ}|^2$ は最小となるわけです。

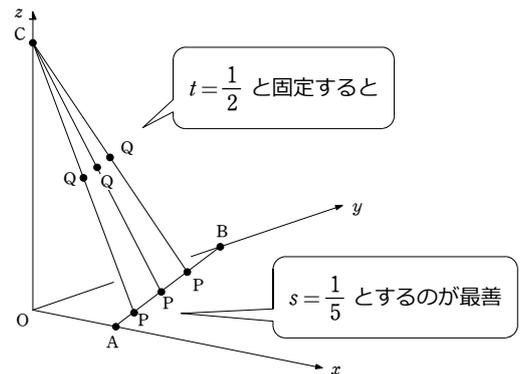
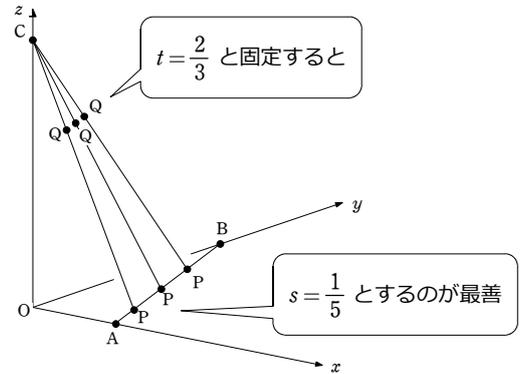
つまり、 $s = \frac{1}{5}$ 、 $t = \frac{5 \cdot \frac{1}{25} - 2 \cdot \frac{1}{5} + 1}{5 \cdot \frac{1}{25} - 2 \cdot \frac{1}{5} + 10} = \frac{4}{49}$ で $|\overrightarrow{OQ}|$ は最小となります。

【総括】

s 、 t のどちらを先に固定するかについては t を先に動かすと割と大変でした。

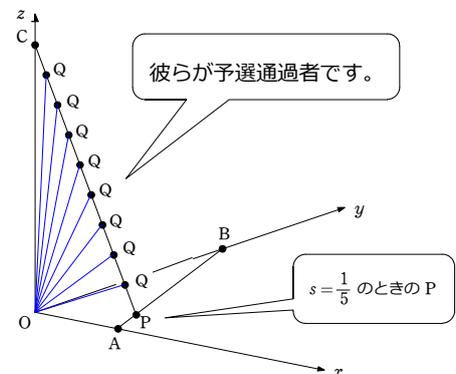
さて、今回の式的な予選決勝法の処理を図形的に捉え、予選通過者の控室を覗いてみることにします。

例えば、



このように、何か一つ t の値を固定したとき、 $s = \frac{1}{5}$ とするのが最善です。

つまり



その後、固定していた t を動かし、(t を動かすということは Q を動かすということ) 最小値「たち」のなかの最小値を決めるのです。